

散歩者・通行者が多い歩道や側溝が老朽して危険



自宅周辺を散歩してみたら、驚くことたくさん！

側溝を支えている部分が崩れ落ちているところ、くずれ始まっているところが数多くあります。また、県道の歩道では、街路樹としての銀杏の木の根が張っているためか、歩道が盛り上がりひびが入り、銀杏の木は、道路側に傾いています。

これらの歩道は、毎日、朝早くから高齢者や若い人でも犬を連れての散歩など、多くの人が歩いて通っています。今のところ怪我の情報はありませんが、とても危険が大きいことを感じました。こうした視点で、全村を見て回ったなら、古くなった設備はどこも同じようになっているのではないか気になりました。

点検して修繕が必要になっています。

原子力研究施設学習懇談会に参加しました



日本共産党茨城県議団（団長：山中たい子）が主催した、原子力研究施設学習懇談会に参加しました。

原子力機構が、大洗町にある材料試験炉（JMTR）と東海村の高速実験炉（FCA）の研究用原子炉 2 基を含む、県内の原子力施設 10 施設を廃止する方針を明らかにしたこと、また、「常陽」の再稼働に向けた規制委員会への申請を来年 3 月に行う方向でいる

こと、あわせて知事が、「一般の原発（軽水炉）の安全性を評価できる研究炉の必要性と、代替地は東海か大洗」にと、言及したことを受けての学習懇談でした。

核燃料サイクル政策は、高速炉開発計画の再三の遅れ、実際の開発経過は失敗の連続、核不拡散政策との矛盾（プルトニウム利用の失敗）、安全性は軽水炉より危険、過酷事故想定が困難であるなど、すでに破綻しています